

研究ノート

第二言語としての日本語ナラティブ作文の 評価基準とルーブリックの開発

Development of Evaluation Criteria and Rubric for Narrative Writing in JSL

坪根 由香里*・トンプソン 美恵子**・
影山 陽子***・数野 恵理****

TSUBONE Yukari・THOMPSON Mieko・KAGEYAMA Yoko・KAZUNO Eri

Japanese academic writing includes not only argumentation but also narrative. This study proposes an evaluation criteria and a rubric for evaluating narrative writings. First, the researchers created a draft of the evaluation criteria by referring to studies of Japanese narrative discourse and several evaluation criteria for both Japanese argumentative writing and English narrative writing. Utilizing the draft, the researchers conducted two research studies. For one study the researchers evaluated narrative writings written by Japanese college students. For the other study, JSL (Japanese as a Second Language) teachers evaluated narrative writings by JSL learners. Based on the results from those studies, the researchers modified the draft of the evaluation criteria and developed the rubric.

キーワード：ライティング (writing)、ナラティブ作文 (narrative writing)、評価基準 (evaluation criteria)、ルーブリック (rubric)

1. はじめに

近年、第二言語としての日本語のライティング評価研究が進んでおり、中でも、アカデミック・ライティングで必要とされる論証型の作文に関しては、多くの研究が見られるようになった。その中には、「論証」の作文で **good writing** とされるにはどのような要素が必要かについて明らかにしたもの（田中・坪根 2011）や、評価基準を提案したもの（田中他 2009）もある。

しかし、文章には、「論証」の他にも「ナラティブ」「描写」「説明（手順・過程、定義、分類・例示、比較・対照、原因・結果）」といったモード（文章の種類）がある（田中・阿部 2014）。これらは日本語の作文教育でも扱われるが、研究が進んでいないのが実情である。筆者らは、これまで開発されてこなかった日本語のナラティブ作文の評価項目・評価基準を開発することを目指している。なお、本研究では、「ナラティブ」を「一連の出来事を時間軸に沿って展開する文章」（田中・阿部 2014）とするが、「ナラティブ」には、ある問題意識から対処、解決に至るまでの一定の展開が求められるものもあり、時間的経過・順序が示すものには幅があると考える。

日本語学習者にとって、「ナラティブ」は初級文法の定

着を図るために書く簡単な作文（例：「私の一日」「旅行の思い出」等）から始まる。しかし、日本の大学等で求められるアカデミック・ライティングでも、歴史的イベントについてレポートを書いたり、あるテーマについてその経緯を報告したりすることもあるだろう。また、日本で就職活動をする場合は、エントリーシートで自らの経験を読み手にわかりやすく描写・説明する必要もある。したがって、アカデミック・ライティングにおいても、ナラティブ作文の評価基準を開発することは有用であろう。

本稿では、「ナラティブ」を対象とし、その評価項目・評価基準と評価のためのルーブリックの提案を行う。以下では、その開発までの経緯について説明し、作成した評価基準およびルーブリックを提示する。

2. 評価基準開発までの経緯

本研究の最終目標は、第二言語としての日本語のナラティブ作文の評価項目・評価基準を開発することである。評価基準開発にあたり、まず①評価基準の原案を作成した。そして、②対照群として日本語母語話者を対象とした調査を実施することとし、その評価基準を用いて、筆

*大阪観光大学観光学部/日本語教育、**山梨学院大学グローバル・ラーニング・センター/日本語教育、

昭和音楽大学音楽学部/日本語教育、*立教大学日本語教育センター/日本語教育

者らが日本語母語話者（日本人大学生）21 名による 2 種類のナラティブ作文の評価を行った。その後、さらに評価項目の検証を行うため、③日本語教師がどのような観点からナラティブ作文を評価するのかを調べた。この調査では、日本語学習者による 10 編のナラティブ作文を、日本語教師 20 名に評価基準を示さずに評価してもらい、その評価の観点について分析した。以下では、①③から評価基準開発の経緯について説明し、その後、②の結果からループリックの開発に至った経緯について述べる。

(1) 評価基準原案作成まで

評価基準を作成するにあたり、日本語のナラティブ・ディスコースの研究、日本語の論証型作文の評価基準、英語のナラティブ作文評価基準を参考にした。

まず、日本語のナラティブ・ディスコース研究には南（2006）がある。南（2006）は、Labov（1972）の「要旨・導入部（Abstract）」「設定・方向付け（Orientation）」「出来事（Complicating Action）」「評価（Evaluation）」「解決・結果（Resolution/Result）」「結語・終結部（Coda）」というナラティブ・ディスコースの構成要素のうち「出来事」「設定」「評価」に「引用節」と「心理的補足」を加えて分析を行っている。

次に、日本語の論証型作文の評価に関するものには、田中他（2009）、田中・坪根（2011）、田中他（2017）等がある。田中他（2009）では、「目的・内容」「構成・結束性」「読み手」「日本語 A：正確さ」「日本語 B：適切さ」の 5 トレイトを 0～6 のレベルで評価するマルチプルトレイト評価表を使用している。日本語のトレイトは A と B の 2 つに分けられているが、「日本語 B：適切さ」には話し言葉と書き言葉、普通体と丁寧体の区別も含まれる。田中他（2009）では 2 種類の評価基準が提示されている。評価基準 A では、各トレイトに下位項目を設定し、その項目の観点について記述している。また、評価基準 B では、レベル別の基準説明がなされている。

田中・坪根（2011）では、日本語教師に各自の基準で作文を評価してもらい、その時の思考から good writing の順位決定要素を分析している。その結果、「課題の達成」「主張の明確さ」「内容のオリジナリティ」「客観的で広い視野からのサポート」「構成」「談話展開のテクニック」「表現力の豊かさ」等を順位決定要素として示している。

田中他（2017）は論証型作文の評価を、フローチャート（以下 FC）を用いて行ったものである。FC は、総合的評価、およびマルチプルトレイト評価（「目的・内容」「構成・結束性」「日本語」の 3 つのトレイト）の 4 種類がある。「目的・内容」の FC では「メインアイデア」「サポート」「メインアイデアの一貫性と妥当性」「社会的な視点や客観性」「オリジナリティ」という観点で、「構成・結束性」の FC では「構成意識」「パラグラフ意識」「マクロ構成（序論・本論・結論）」「パラグラフ間の結束性」「序論と結論の呼応」という観点で評価している。

最後に、英語のナラティブ作文では、評価のためのループリックが公開されているものがある（稿末資料参照）。紙幅の関係でこの中の 2 つについて説明する。University of Hawaii at Manoa の“Foundations Written Communication Scoring Rubric”（表-1 参照）では、論証型の作文と同様に「CONTENT」（内容）、「ORGANIZATION」（構成）、「LANGUAGE & STYLE」（言語とスタイル）、「MECHANICS」（技法）というトレイトに分けて、それぞれ 4 段階で記述しているが、各トレイトで求められる内容は論証型作文と異なるものになっている。具体的には、「CONTENT」（内容）では、アイデアの新鮮さ・創造性、設定・登場人物の十分な描写、一貫性等、「ORGANIZATION」（構成）では、順序立った展開、導入・本論・結論の効果的な構成、段落分け、段落間の結束性、重要でない詳細に多くを割かないといった記述のバランス等、「LANGUAGE & STYLE」（言語とスタイル）では、修辭的表現や比喩等の言語使用、語彙選択、文章の調子・語調等、「MECHANICS」（技法）では、表記、文法、句読点、引用等が評価のポイントとされている。

また、National Council of Teachers of English の“Rubric for a Narrative Writing Piece”（表-2 参照）では、「FOCUS」（焦点）、「ELABORATION」（詳細な説明）、「ORGANIZATION」（構成）、「CONVENTIONS」（形式）、「INTEGRATION」（総合的評価）に分けて、6 段階で記述している。「FOCUS」（焦点）は、主題の明確さ、主題と出来事の一貫性、主題に合った導入と結論、効果的な結末等、「ELABORATION」（詳細な説明）は、具体的に詳しいエピソード等、「ORGANIZATION」（構成）は、明確な順序、論理的流れ、適切な段落分け、一貫性と結束性等、「CONVENTIONS」（形式）は、文法、表記、句読

点等、「INTEGRATION」（総合的評価）は、作文全体の課題遂行、内容の深まり、一連のエピソードの一貫性・結

表－1 ハワイ大学マノア校のルーブリック

における評価項目（抜粋）

評価項目	説明
CONTENT（内容）	アイデアの新鮮さ・創造性 設定・登場人物の十分な描写 一貫性 等
ORGANIZATION（構成）	順序立った展開 導入・本論・結論の効果的な構成 段落分け 段落間の結束性 記述のバランス（重要でない詳細に多くを割かない）等
LANGUAGE & STYLE（言語とスタイル）	修辭的表現や比喩等の言語使用 語彙選択 文章の調子・語調 等
MECHANICS（技法）	表記、文法、句読点、引用 等

（出典：“Foundations Written Communication Scoring Rubric”（University of Hawaii at Manoa）、筆者訳）

表－2 National Council of Teachers of English のルーブリックにおける評価項目（抜粋）

評価項目	説明
FOCUS（焦点）	主題の明確さ 主題と出来事の一貫性 主題に合った導入と結論 効果的な結末 等
ELABORATION（詳細な説明）	具体的で詳しいエピソード 等
ORGANIZATION（構成）	明確な順序 論理的流れ 適切な段落分け 一貫性と結束性等
CONVENTIONS（形式）	文法、表記、句読点等
INTEGRATION（総合的評価）	作文全体の課題遂行 内容の深まり 一連のエピソードの一貫性・結束性等

（出典：“Rubric for a Narrative Writing Piece”（National Council of Teachers of English）、筆者訳）

束性等について記述されている。他にも、Turnitin の“COMMON CORE STATE STANDARDS WRITING RUBRICS”のように、人を引きつける会話や芸術的なテンポといったナラティブ・テクニクや、五感に訴える豊かな言葉等の修辭的なものを評価項目に挙げているル

ーブリックもある。

その他の英語のルーブリックに関する資料も含めて、評価項目を一覧として作成し、その中から特に複数の資料に含まれるものを中心に、日本語のナラティブ評価項目として抽出した。

以上を参考にして、＜内容＞＜構成＞＜日本語＞の 3 つのトレイトについて、表－3 の評価項目を設定した。

表－3 評価基準原案

トレイト	項目名	評価内容
内容	課題達成	課題を達成している
	ポイントの明確さ	メインポイントが明確である
	独創性	独創性があり、読み手にとって興味深い
	一貫性	主題と出来事の間の一貫性があり、全体の筋が通っている
	過不足ない描写	具体的で過不足のない、明確な描写（出来事・感想）がある
	導入部とまとめ	読者の理解を助ける導入部と効果的なまとめがある
構成	マクロ構成	マクロ構成（導入・本論・まとめ）がある
	順序立て	話の論理的な順序立てがある
	パラグラフ意識	パラグラフ意識がある
	結束性	パラグラフとパラグラフ、文と文の結束性があり、つながりがスムーズである
日本語	記述量のバランス	重要でない詳細に分量を割きすぎておらず、全体の記述量のバランスが適切である
	多様性	語彙・表現、文法、構文等に豊かさ、多様性がある
	スタイル	基本的にスタイルが統一されている（効果を狙っての使用を除く）
	正確さ	語彙・表現、文法、構文、表記、句読点等が正確である

評価項目の設定に際し、ナラティブはサポート（根拠）を示しながら客観的に主張する論証とは異なるため、論証の評価項目からは、「主張の明確さ」「サポート」「社会的な視点や客観性」「序論と結論の呼応」を除外した。「課題達成」「ポイントの明確さ」「独創性」「一貫性」「マクロ構成」「パラグラフ意識」「結束性」「記述量のバランス」と日本語の各項目は、論証型と共通するものである。

南（2006）と英語のルーブリックを参考にナラティブ特有のものとして追加した項目は、出来事やその出来事に対する感情・評価の明確な描写を問う「過不足ない描写」、順序立った展開を問う「順序立て」、そして「導入

部とまとめ」である。しかし、本評価基準は、アカデミック・ライティングにおけるナラティブを想定しているため、英語ルーブリックに見られた「ナラティブ・テクニク」「修辞（比喩的・感覚的・五感に訴える等）」といった評価項目は採用しなかった。

(2) 評価基準の修正

表-3 の評価基準を検証し、日本語教師のナラティブ作文を評価する際の観点を調べるため、2020 年 1 月～2 月に、日本の大学で留学生に対する日本語の作文指導をしている日本語教師 20 名を対象に調査を行った。

調査では、海外の大学で学んでいる日本語学習者による 10 編のナラティブ作文を用いて、まず、調査 1 では各自の基準で 1 点（かなり問題がある）から 6 点（非常によい）で評価してもらった。調査 2 では、各自の基準で 10 編を「よい」と思われる順に並べて、それぞれの作文の順位を決定するときの決め手を自由記述で答えてもらった上で、ナラティブ作文の good writing の決め手、ナラティブ作文における「よい内容」「よい構成」を書いてもらった。調査 3 では表-3 の項目名を除いたトレイトと評価内容を提示し、作文を評価する際に意識した項目を全て選択してもらい、どの程度重視したのかも尋ねた。

調査結果の詳細は別稿に譲るが、調査 3 で作文を評価する際に意識した項目については、表-3 の全ての評価項目で 70～95% の教師が意識したと回答した。よって、これらの項目はナラティブ作文を評価する上で必要なものだと考えた。一方、調査 2 の作文の順位を決定するときの決め手等の自由記述では、「ある出来事を時間軸に沿って並べ、どこで誰と何を経験したのかという情報がきちんとそろっていることが大切だと思いました。そして、その時、もしくはその経験からどんなことを考えたのか、どんな感情になったのかが一緒に述べられているほうがよいと思いました。」のように、出来事の記述だけでなく、そこから感じたこと、考えたこと等、心情も書く必要があるとの記述が多数見られた。原案では「過不足ない描写：具体的で過不足のない、明確な描写（出来事・感想）がある」のように、出来事および心情が同じ項目内で評価されていたが、それらについて個別に評価する必要があると考え、「出来事の描写：出来事について具体的な描写がある。」と「心情・評価：出来事に対する心情・評価

（自分にとっての意味、感じたこと、考えたこと、学んだことなど）がある。」の 2 つに分けることとした。

その他、これまでの調査の過程から、より評価内容に合った適切な用語があると考えに至り、以下の項目名を修正した。＜内容＞のトレイトでは、まず、ナラティブの「主題（トピック）」が明確であることを示すため「ポイントの明確さ」を「メインポイントの明確さ」にした。また、「独創性」については、誰も考えつかないような内容を求めているかのように取れるため、「興味深さ」とし、その項目説明では論証型でも用いられている「オリジナリティ」という用語を用いている²⁾。「導入部とまとめ」は序論と本論があるだけではなく、それが読者の理解を助ける効果的なものであることを含めるため、「効果的な導入部とまとめ」に変更した。＜構成＞のトレイトでは、「パラグラフ意識」を「段落意識」に「記述量のバランス」を「バランス」に変更した。「パラグラフ」というのは、英語における考え方であり、1 つのパラグラフに書くトピックは 1 つで、トピックセンテンスとして冒頭に書かれる。その後、その主張をサポートする文が続くとされている（田中・阿部 2014）。つまり、そこからは、論証型作文のイメージが強くなると考え、「段落」という用語を用いることにした。「記述量のバランス」は、単に量の問題ではなく、記述が必要とされる重要な事柄を配分よく説明しているかを問うため、単に「バランス」とした。表-4 は修正した評価項目の一覧である。修正後の本研究で提案する評価基準は稿末の資料 1 に示す。

表-4 修正した評価項目

	原案の評価項目名	変更後の評価項目名
内容	「過不足ない描写」	「出来事の描写」 「心情・評価」
	「ポイントの明確さ」	「メインポイントの明確さ」
	「独創性」	「興味深さ」
構成	「導入部とまとめ」	「効果的な導入部とまとめ」
	「パラグラフ意識」	「段落意識」
	「記述量のバランス」	「バランス」

3. ナラティブ作文評価のためのルーブリック作成

筆者らは先述した日本語教師を対象とした調査に先立ち、2019 年 8 月～12 月に、表-3 の評価基準を用いて日本人大学生 21 名による 2 種類のナラティブ作文を評

価する研究を行った。作文課題は「困難／大変だったこと」と「忘れられない出来事」（約 600～800 字）である。

筆者らが評価者となり、1 編につき 3 名が、◎非常にできてきている＝4、○ほぼできてきている＝3、△あまりできていない＝2、×できていない（かなり問題がある）＝1、の 4 段階で評価した。3 名の中央値を各項目の評価点としたが、評価が 2 段階以上離れた項目については、もう 1 名が評価に加わり、評価者間で評価理由を出して話し合った上で各評価者が再評価し、評価点を確定した。

21 編×14 項目、延べ 294 項目のうち、最初の評価が 2 段階以上離れた項目は、「困難／大変だったこと」で 36 項目（12.2%）、「忘れられない出来事」で 35 項目（11.9%）あった。つまり、上記の 4 段階での評価基準では、各評価者によって基準の尺度が異なる場合があるということがわかった。このように複数の教師で評価を行う場合、さらに詳細な基準が必要であると考え、それぞれの段階が具体的にどのようなものを示すのかの尺度をルーブリックの形で作成することとした。そして、その後に修正された評価基準に基づいて、ルーブリックを作成した。

作成した＜内容＞＜構成＞＜日本語＞それぞれのナラティブ作文評価用ルーブリックは、稿末の資料 2-1、2-2、2-3 に示す。

4. 今後の展望

本稿では、日本語のナラティブ・ディスコース研究、日本語の論証型作文の評価基準、英語のナラティブ作文評価基準を参考に開発した「ナラティブ」の評価基準とその評価尺度を示すルーブリックを提示した。

今後は、本評価基準およびルーブリックを用いて、非母話者日本語教師がナラティブ作文をどのように評価するのか、どの項目が重視されるのかについても調べる予定である。また、評価項目の中でどの項目が優先されるのかについても検討し、最終的には田中他（2017）が示した論証型作文のための FC（総合的評価、およびマルチプルトレイト評価）のナラティブ作文版を作成したいと考えている。

*本研究は、科学研究費補助金基盤研究(B)19H01274「日本語ライティングにおけるナラティブの Good Writing 探究と評価法の開発」（代表者：坪根由香里）の取り組みの一部である。

【補注】

- 1) Faculty Innovative Center, the University of Texas at Austin (2017) にあるように、どのような観点で評価するかを示す評価規準 (evaluation criteria) とその到達度を示す尺度、すなわち評価基準 (rating scale) が使われることが多いが、本稿では田中他 (2009) に倣い、evaluation criteria とその説明を「評価基準」と定義づけることとする。
- 2) 「興味深さ」や「独創性」は読み手の感じ方や背景知識等によって評価が主観的になる可能性はあるが、今回参考にした英語のルーブリックの中にも、「アイデアの新鮮さ・創造性」という観点が含まれており、これは「独創性」「興味深さ」につながるものだと考えられる。また、論証型の先行研究においても「オリジナリティの有無」という項目が入っている。

【引用・参考文献】

- 田中真理・阿部新（2014）『Good writing へのパスポートー読み手と構成を考えた日本語ライティング』、くろしお出版
- 田中真理・阿部新・影山陽子・佐々木藍子・坪根由香里（2017）「ヨーロッパ日本語学習者のライティング（エッセイ）分析：総合的評価とマルチプルトレイト評価結果を参照して」『ヨーロッパ日本語教育』22、ヨーロッパ日本語教師会、pp.75-92.
- 田中真理・坪根由香里（2011）「第二言語としての日本語小論文における good writing 評価ーそのプロセスと決定要因ー」『社会言語科学』第 14 巻第 1 号、pp.210-222.
- 田中真理・長阪朱美・成田高宏・菅井英明（2009）「第二言語としての日本語ライティング評価ワークショップー評価基準の検討ー」『世界の日本語教育』19、pp.157-176.
<https://www.jpff.go.jp/j/project/japanese/archive/globe/19/10.pdf>
- 南雅彦（2006）「語用の発達ーナラティブ・ディスコース・スキルの習得過程ー」『心理学評論』49 巻 1 号、pp.114-135.
- Labov, William. (1972) *Language in the Inner City*. University of Pennsylvania Press.
- Faculty Innovative Center, the University of Texas at Austin. (2017) "What is a Rubric?" <https://facultyinnovate.utexas.edu/sites/default/files/build-rubric.pdf>（2020 年 12 月 2 日参照）
- <ナラティブ評価項目参考資料>
- Somasundaran, S., Flor, M., Chodorow, M., Molloy, H., Gyawali, B., & McCulla, L. (2018). Towards Evaluating Narrative Quality In Student Writing, *Transactions of the Association for Computational Linguistics*, vol. 6, pp.91-106.
- Foundations Written Communication Scoring Rubric. University of Hawaii at Manoa. <https://drive.google.com/file/d/1qXpVIXEn5bCbMk0OEKHFtk2dEJY98f2/view>（2020 年 11 月 19 日参照）
- Rubric for Assessment of the Narrative Essay. University of Virginia.

https://ira.virginia.edu/sites/ias.virginia.edu/files/humanities_narrativeessay.pdf（2020 年 11 月 19 日参照）

Rubric for a Narrative Writing Piece. National Council of Teachers of English. http://www.readwritethink.org/files/resources/lesson_images/lesson116/NarrativeRubric.pdf(2020 年 11 月 19 日参照)

Common Core State Standards Writing Rubrics. Turnitin.

https://www.csun.edu/sites/default/files/Common%20Core%20Rubrics_Gr11-12_turn_it_in_1.pdf（2020 年 11 月 19 日参照）

資料 1 日本語ナラティブ作文評価基準

トレイト	項目	項目説明
内容 Content	課題達成/ Achieving the Writing Objective	課題を達成している。
	メインポイントの明確さ/ Main Point Clarity	メインポイント（筆者が一番言いたいこと、話の焦点）が明確である。
	興味深さ/ Holding the Readers' Interest	オリジナリティがあり、内容が興味深く、読み手を引きつける。
	一貫性/ Consistency	内容に一貫性がある。
	出来事の描写/ Event Description	出来事について具体的な描写がある。
	心情・評価/ Emotion and Evaluation	出来事に対する心情・評価（自分にとっての意味、感じたこと、考えたこと、学んだことなど）がある。
	効果的な導入とまとめ/ Effective Introduction and Conclusion	単に導入、まとめがあるだけでなく、読者の理解を助ける導入部と効果的なまとめがある。
構成 Organization	マクロ構成/ Overall Structure	マクロ構成（導入・本論・まとめ）がある。
	順序立て/ Sequence	話の論理的な順序立てがある。
	段落意識/ Paragraph Construction	段落を作るという意識がある。1つの内容が1つの段落に書かれている。
	結束性/ Cohesion	段落と段落、文と文の結束性があり、つながりがスムーズである。
	バランス/ Balance	重要でない詳細に分量を割きすぎず、全体の記述量のバランスが適切である。
日本語 Japanese	多様性/ Variety	語彙・表現、文法、構文等が豊かで、多様性がある。
	スタイル/ Style	基本的にスタイル（文体など）が統一されている（効果を狙っての使用を除く）。
	正確さ/ Accuracy	語彙・表現、文法、構文、表記、句読点等が正確かつ適切である。

資料 2-1 日本語ナラティブ作文評価用ルーブリック：内容

	項目	4点: 非常によくできている	3点: ほぼできている	2点: あまりできていない (問題がある)	1点: できていない (かなり問題がある)
内容	課題達成	・課題を達成している。	・課題をほぼ達成している。	・課題からずれた部分がある。	・課題から大きくずれている。 ・課題内容が書かれていない。
	メインポイントの明確さ	・メインポイント（筆者が一番言いたいこと、話の焦点）が明確で、よくわかる。	・メインポイントがわかる。	・メインポイントがわかりにくい。	・メインポイントがわからない。
	興味深さ	・オリジナリティがあり、内容が興味深く、読み手を引きつける。	・オリジナリティがあるとは言えないが、内容は興味深く、読み手を引きつけるところがある。	・内容に面白みが欠けており、読み手の興味を引きつけるところがあまりない。	・内容に面白みがなく、読み手の興味を引きつけない。
	一貫性	・内容に一貫性がある。	・一部問題はあっても、内容にほぼ一貫性がある。	・内容にずれがあるなど、一貫性に問題がある。	・内容に矛盾が見られたり、話があちこちに飛ぶなど、一貫性にかなり問題がある。
	出来事の詳細	・出来事について具体的に描写されており、読み手がその状況を容易に想像できる。	・出来事についての具体的な描写がほぼできている。	・出来事の描写があまり具体的でない。または、説明が不足している部分がある。	・出来事についての具体的な描写がない。または、説明がかなり不足している。
	心情・評価	・出来事に対する心情・評価（自分にとっての意味、感じたこと、考えたこと、学んだことなど）が十分記述されている。	・出来事に対する心情・評価が記述されている。	・出来事に対する心情・評価があまり記述されていない。	・出来事に対する心情・評価が全く記述されていない。
	効果的な導入とまとめ	・単に導入、まとめがあるだけでなく、読み手の理解を助ける導入と効果的なまとめの両方がある。	・（導入、まとめのいずれかがない場合でも）読み手の理解を助ける導入と効果的なまとめのどちらかがある。	・導入もまとめも、読み手の理解を助けるなどの効果があるとは言えない。	・導入とまとめがない。 ・導入、まとめのいずれか、または両方にかなり問題がある。

資料 2-2 日本語ナラティブ作文評価用ルーブリック：構成

	項目	4点：非常によくできている	3点：ほぼできている	2点：あまりできていない (問題がある)	1点：できていない (かなり問題がある)
構成	マクロ構成	・段落分けされていて、導入・本論・まとめがある。導入・まとめがごく短い一文ではない。	・段落分けされていない場合でも導入・本論・まとめに相当するものがある。 ・段落分けされているが、導入またはまとめがごく短い一文のみである。	・導入またはまとめがない（急に本論に入ったり、急に終わっているなど、何かが欠けている）。	・導入もまとめもない。
	順序立て	・話の流れが順序立てられており、読み手の推測を全く必要とせず、一読して展開が理解できる。	・話の流れがほぼ順序立てられており、読み手の推測をほとんど必要とせず、展開が理解できる。	・話の流れがあまり順序立てられておらず、展開を理解するために読み手の推測を必要とする。	・話の流れが順序立てられておらず、読み手が展開を理解できない。
	段落意識	・適切な段落分けがされており、1つの内容が1つの段落に書かれている。	・導入、本論、まとめの段落分けがあるが、段落を分けたほうがいいにもかかわらず、本論が1つの大きな段落になっている。 ・1つの内容が1つの段落に書かれていない部分がある。例えば、段落の中身を見ると、適当なところで切られていない部分がある。	・段落分けがされているが、導入と本論が合体、あるいは、本論とまとめが合体している。 ・段落分けがされているが、分け方が細かすぎる（1～2文で構成される段落がいくつかある）。	・段落分けが全くされていない。または、作文全体が1～2文ごとに改行されているなど、段落を作るという意識が全く見られない。
	結束性	・段落と段落、文と文の結束性があり、つながりがスムーズである。	・段落と段落、文と文の結束性がほぼあり、つながりも比較的スムーズである。	・段落と段落、文と文の結束性があまりなく、つながりがおかしなところが複数ある。	・段落と段落、文と文の結束性がなく、つながりがおかしなところが多数ある。
	バランス	・全体の記述量のバランスが適切である。	・一部問題はあっても、全体の記述量のバランスはほぼ適切である。	・重要でない詳細の分量が多い。または、必要な説明が不足している。	・重要でない詳細に分量を割きすぎている。または、必要な説明がかなり不足している。

資料 2-3 日本語ナラティブ作文評価用ルーブリック：日本語

	項目	4点: 非常によくできている	3点: ほぼできている	2点: あまりできていない (問題がある)	1点: できていない (かなり問題がある)
日 本 語	多様性	・語彙・表現、文法、構文等が非常に豊かで、多様性がある。	・語彙・表現、文法、構文等が比較的豊かで、多様性がある。	・語彙・表現、文法、構文等の多様性があまりない。	・語彙・表現、文法、構文等の多様性がない。
	スタイル	・全体のスタイル（文体など）が統一されている（効果を狙ったの使用を除く）。	・全体のスタイルがほぼ統一されている。	・複数の箇所で異なったスタイルが使われている。	・スタイル統一への意識が見られない。
	正確さ	・語彙・表現、文法、構文、表記、句読点等が非常に正確である。	・語彙・表現、文法、構文、表記、句読点等がほぼ正確で、間違いが少ない。	・語彙・表現、文法、構文、表記、句読点等の間違いや不適切な使用がやや目立つ。	・語彙・表現、文法、構文、表記、句読点等の間違いや不適切な使用が多く、非常にわかりにくい。